



2019年8月7日

各 位

上 場 会 社 名 ヤマハモーターロボティクス
 ホールディングス株式会社
 代 表 者 代表取締役社長 石岡 修
 (コード番号 6274 東証第一部)
 問合せ先責任者 取締役 森 琢也
 (電話番号 03-5937-6404)

2019年12月期第1四半期連結累計期間業績予想値と 実績値との差異に関するお知らせ

2019年5月9日に公表した2019年12月期第1四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異についてお知らせします。

記

2019年12月期第1四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年6月30日）連結業績予想値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期 純利益	1株当たり 四半期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	2,700	△1,250	△1,340	△1,370	△75.32
実 績 値 (B)	1,962	△1,179	△1,187	△1,230	△49.72
増 減 額 (B-A)	△738	71	153	140	—
増 減 率 (%)	△27.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期第1四半期実績 (2019年3月期第1四半期)	1,865	△849	△890	△939	△51.67

差異が生じた理由

昨年度より続いているスマートフォン市場の需要減速やメモリ価格の下落の影響による設備投資の抑制を見据えた業績予想を公表しておりましたが、5月下旬以降の安全保障問題を含めた米中摩擦の激化に起因する中国市場における設備投資意欲の減退による影響が当社の想定を上回り、当第1四半期会計期間においても、一部の顧客で設備投資の一時凍結や本年後半以降への先送りなどが散見されました。このため、当初見込んでいた売上高を下回りました。一方で、市場動向を踏まえた研究開発計画の一部見直しにより、経費支出が抑制されたため、営業損失額は縮小しました。また、為替差損の額が想定を下回ったことにより、経常損失および親会社株主に帰属する当期純損失の額は縮小しました。

以 上